



公益社団法人 長崎県理学療法士協会 役員選挙立候補者

【理事】

<p>重松 康志 (55歳)</p>		<p>浦川 純二 (56歳)</p>	
<p>所属 医療法人 雄人会 三川内病院</p>		<p>所属 長崎県病院企業団 長崎県島原病院</p>	
<p>立候補趣旨</p> <p>2002年より理事として長崎県理学療法士協会に携わらせてもらっています。現在、職能推進局で医療介護福祉そしてスポーツの分野の担当をさせていただき、法改正の情報発信や研修会企画・小児や訪問リハビリなどの情報を県民の方々に周知。スポーツ分野においては各団体と連携を図り、大会のサポートを行っております。</p> <p>昨今は、属性を問わず、依頼が枚挙にいとまない状況であります。</p> <p>様々なライフステージにおいて多様なニーズに対応し、県民の皆様や関連団体との信頼関係がさらに強固なものとなるよう微力ながら尽力してまいります。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>		<p>立候補趣旨</p> <p>現在、教育学術局長として学術研修部や学会を中心に担当させていただいています。引き続き理事に立候補させていただきます。</p> <p>理学療法士としての知識・技術向上などの生涯学習を続け、自身を成長させることが医療・保健・福祉の増進に寄与し、社会や地域包括ケアシステムの中で役割を果たすことにつながると考えています。皆様が積極的に本会を活用し、学術活動を通じた自己研鑽ができるよう、工夫をしていきたいと考えています。また新型コロナウイルス感染症も5類移行となり、場面に応じた感染対策を続けながら技術系の対面研修なども積極的に進めていく所存です。</p> <p>甚だ微力ではありますが、よろしくお願いいたします。</p>	
<p>井手 伸二 (62歳)</p>		<p>小田 慎也 (47歳)</p>	
<p>所属 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院</p>		<p>所属 長崎県上五島病院附属 診療所 有川医療センター</p>	
<p>立候補趣旨</p> <p>これまでの理学療法士の経験の中で、私の考える「理学療法士像」をお伝えし立候補の趣旨に変えたいと思います。</p> <p>○探求心のある理学療法士 臨床上、「なぜこうなるの？」を常に考え、問題を解決していく姿勢と行動が必要だと思えます。考察力を高め、もっと理学療法の楽しさをアピールしていくことが大切です。</p> <p>○地域から求められる理学療法士 理学療法の効果、成果のアウトカムは実際の生活の中にあると思えます。また、介護予防など地域で理学療法も多く実践されています。地域での経験、研鑽を積むこととその仕組みづくりが必要と感じます。</p> <p>○後輩を育成する理学療法士 卒後教育の在り方やしっかり現場で行動できるような落とし込み(仕組み)が必要です。</p> <p>○他専門職と一緒に仕事ができる理学療法士 理学療法を病院内、あるいは地域で展開するには多職種との協働が重要です。多職種と一緒に学びが必要だと思えます。</p>		<p>立候補趣旨</p> <p>コロナ禍では長崎県理学療法士協会の、新しい形での学術大会や研修会等で大変お世話になりました。</p> <p>昨年5月に分類が見直しされ、研修会等も以前のように対面型が増え、コロナ前に戻りつつありますが、島嶼部にとっては平日の対面型は厳しいものがある為、今後もオンライン型をお願いしたいと思っております。</p> <p>私が勤務する新上五島町の高齢化率は、2020年42.7%と全国平均の28.7%を大きく上回っており、また2045年には63.2%と推計されています。島嶼部という限られた資源・財源の中、リハビリを展開し、かつ個々のスキルアップもしていくためにも情報の共有は必要だと考えております。</p> <p>コロナ禍での長崎県理学療法士協会の取り組みに感銘を受け、微力ながら今後の発展に少しでも協力したいと思い、また島嶼部の声を少しでも届けることができればと考え立候補致しました。何卒宜しくお願い申し上げます。</p>	

<p>大山 盛樹(60歳)</p>		<p>小無田 彰仁(58歳)</p>	
<p>所属 柿添病院附属中野診療所</p>		<p>所属 医療法人和仁会 和仁会病院</p>	
<p>立候補趣旨</p>		<p>立候補趣旨</p>	
<p>引き続き、(公社)長崎県理学療法士協会の理事(役員)に立候補させていただきたく理事に立候補させていただきます。 本協会は昨年度、設立 51 年目を踏み出し、今年度は公益社団法人の認定を受け、11 年目を進む歴史も深く、長崎県民や国民からの社会的信用のもとに成り立つ職能団体です。 先輩方諸氏が築き上げたこの歴史と、社会からの信用を更に深く広く認めていただくために、再び粉骨砕身の思いをもって臨みたいと誓います。 本協会が重点的に取り組んで来ている地域包括ケアシステムへの積極的な参画や、将来の理学療法士を育む臨床実習から臨床教育の認証を有するシームレスな構築、登録理学療法士と認定・専門理学療法士といった継続学習を分かりやすくし、社会的地位の向上とインセンティブにつなげる生涯学習システムの浸透などの充実が会員の皆様の有益となるように努めたいと考えています。 また、(石川県能登半島を中心とする大災害の報を案じながらのこの届け出の記述ですが...)毎年世界のどこかで忘れる間もなく発災する大災害は幸いにも本県では近年の経験はありませんが、平時より「支援」に限らず「自援」「受援」において、常に災害に対応でき得る理学療法とリハビリテーションの推進体制を有しておかなくてはなりません。学術・技術の研修会の中に位置づけし、災害リハビリテーションに強い団体でありたいとも思っています。 これらの重点事業等ならびに会員の皆様の福利厚生に係る事業を展開し、会員の皆様はもとより、他団体や会員ではない方々からも魅力を感じていただける強固な学術・職能の組織を目指し、一生懸命に注力させていただきたく存じます。 どうぞ、よろしくお願ひ致します。</p>		<p>会員の皆様、日頃より協会活動にご理解とご協力を賜り感謝いたします。長崎県理学療法士協会は平成25年4月に行政庁(内閣府又は都道府県)より公益社団法人としての設立を認可されました。公益法人化のメリットは、広く国民や県民の利益のために尽くしている団体であることのお墨付きを国や県から得ているという事です。そのお墨付きを得るためには、コンプライアンス(法令順守、規範順守、法人リスクマネジメント)およびガバナンス(コンプライアンスを維持・改善させるための管理体制)について厳しく監督されることで、運営上の大変さはありますが、協会事務局の役割と責任は非常に重いものと受け止めています。 法人格を持った職能団体にとって日々の活動すべてが職能活動に繋がります。私たちは質の高い理学療法を提供するために自己研鑽に努めなければならず、臨床での研究活動や科学を探索することは理学療法の発展につながり、引いては私たちの仕事(職域)を守ることに繋がるものと考えています。私は上述したこれらのことを肝に銘じ、事務局より会員の皆様へ、必要とされる情報を迅速に提供できる体制整備に努めたいと考えています。そのためには現広報機能の課題を洗い出し、改善策を検討すること。そして軸となる協会HPの刷新までを視野に入れて漸次計画的に進めて参りたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>	
<p>志岐 浩二(48歳)</p>		<p>飯野 朋彦(44歳)</p>	
<p>所属 医療法人稲仁会 三原台病院</p>		<p>所属 介護老人保健施設 にしきの里</p>	
<p>立候補趣旨</p>		<p>立候補趣旨</p>	
<p>教育学術局 生涯学習担当理事という立場で、理事4期務めさせて頂きました。2022年4月には、(公社)日本理学療法士協会 新生涯学習システムの運用が開始され、手探りに近い形で、会員の皆様とともに新生涯学習システムへの対応を行って参りました。制度において解りにくい点も多いかと思いますが、部員一同サポートをさせていただきます。 また、推進リーダー制度、領域別ネットワーク研修会等々の各種研修会、学術大会において様々な形で今後も関らせていただければと思います。 今後も会員の皆様から諸々の問い合わせに対して、(公社)日本理学療法士協会 教育推進課や九州各県の生涯学習担当者との連絡・意見交換などを行い、皆様の生涯学習が円滑に行えるようサポートさせていただければとも考えております。</p>		<p>平成30年に理事を拝命し3期(6年)、主に職能関係の担当理事として業務に携わらせていただきました。引き続き協会の発展と会員のサポートに全力を尽くし、定期的な研修や情報共有の機会を増やし、会員同士のネットワーキングを促進していきます。また、協会は地域社会においても一役買う存在であるべきと考えています。私は協会と地域社会の連携を強化し、理学療法士の役割が広く理解され、活用されるよう努めます。地域イベントや啓発活動を通じて、理学療法士の存在価値を広くアピールし、地域社会に貢献していきます。 何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>	

大石 勝規(46歳)		森 健次郎(32歳)	
学校法人岩永学園 こころ医療福祉専門学校		長崎医療技術専門学校	
<p>理学療法士に向けられた社会的なニーズは、多様なものになっております。医療・介護領域での施設内での関りのみに限らないところであることは周知のとおりかと存じます。介護予防のみならず、産業分野、生活習慣病、スポーツの場面などでの予防を目的とする活躍にも、期待が大きいところを実感しております。本協会でも、様々な社会的な関わりを拡大する事業があります。会員の皆様の御活躍により、益々、理学療法士の活躍の場は増えてくることも考えられます。私自身、身体機能のみならず環境面にも十分に配慮した評価に基づき、個人に寄り添った目標に向けたマネジメントを得意とする理学療法士として社会貢献できればと望んでおります。個人での活動には限りがあります。職能団体である長崎県理学療法士協会の一員として、理学療法士を“もっと知ってもらう”ためにも、微力ながら理事として働かせていただきたいと思います。</p>		<p>教育学術局の新人理事として、この2年間活動させていただきました。職域確保のためには、会員数の維持・増加は不可欠であり、そのためには、会員の皆様にとって有益となる事業を推進はもちろんのこと、休会者や子育て世代に対する支援体制の構築などの課題を感じております。また、理学療法士は専門職であるため、生涯学習は不可欠です。臨床や研究活動で得た知見を形にし、エビデンス構築を促進するため、研究助成、発表支援等を含めた研究支援体制の構築も必要と感じております。会員の皆様の声を長崎県理学療法士協会へしっかりと届けられるよう責務を果たしていく所存です。長崎県理学療法士協会の発展に微力を尽くして取り組むことができればと考え、立候補いたします。</p>	